

町田通勤寮だより

NO 57 2016年 5月

社会福祉法人つるかわ学園 町田通勤寮

T 194
0045 東京都町田市南成瀬 1-5-3

電話 042 (739)
0491

巻頭言

まず、この度の「熊本地震」でお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたしますとともに、被災した方々にお見舞いを申し上げます。あわせて、未だ行方不明の方の一日も早い発見を祈念いたします。

避難所生活の厳しさの報道がありますが、避難所に行くことのできない、少ない障害者がさらに厳しい生活に直面しており、高齢者や障害者を中心とした「福祉避難所」の必要性についての報道も目にするようになりました。通勤寮としても万が一の場合に備えた取り組みを検討したいと思っています。

「熊本地震」では多くの福祉施設も被災しています。まだまだ情報が少なく不確定要素は多いですが、取り急ぎできることとして「支援(義援)金」の募集を行います。東日本大震災の時の教訓を生かし、東京都社会福祉協議会と東京都発達障害支援協会が窓口となり、被災した

知的障害者施設へ直接届くよう取り組んでまいります。ご理解ご協力をお願いいたします。

いよいよ四月から、社会福祉法人つるかわ学園「町田通勤寮」の運営が始まりました。施設長としてはこれまで以上に「経営」を意識した施設運営が求められています。いまひとつ「スッキリ」しません。通勤寮の生活の流れが全く変わっていないこともあるのですが、そういう意味では施設長「失格」なのかもしれませんね・・・。

今年も支援学校高等部を卒業したての利用者の方が入寮してきました。毎年のことではありますが、その「若さ」に圧倒されると同時に自分の「年齢」を感じてしまいます。そろそろ「あきらめ?が肝心」なのかもしれません。

(寮長 三階広明)

オリエンテーション

4月3日(日)平成28年度町田通勤寮オリエンテーションが開催されました。毎年年度初めのこの時期、町田通勤寮での生活についての講義を行うことで、新しく通勤寮の仲間となられた方々は通勤寮のシステムを理解するとともにこれからの生活に思いを馳せる機会となり、2年目以降の先輩寮生にとっては自分の通勤寮での生活を改めて見直すチャンスとなります。毎年「そんなルールがあるとは知らなかった」という声が決まって上がりますが、生活に慣れるに従い意識が薄れてしまうことも事実であり、また人間であるがゆえにやむを得ないこともあります。「やばい、気を付けなければ」と感じるか

「まあいいや、ばれなければ」と感じるかで大きく差がついてしまうことを意識し、今後の生活に活かしていただければと願うばかりです。今回は例年と同様のカリキュラムに一味加え、資料のカラー化や、各職員の工夫を凝らしたプレゼンテーションにより、寮生の皆様に通勤寮での生活に一層理解を深め、興味を示していただける内容となりました。

【プログラム】

- ① 寮長挨拶及び職員紹介
 - ② 一日の生活の流れの説明（確認）
 - ③ 生活の決まりについて
 - ④ 金銭支援について
 - ⑤ 一年間の行事について
 - ⑥ 食事について
 - ⑦ 地域生活について
 - ⑧ 自治会について
- 2時間近くの長丁場ではありませんでしたが、皆さん熱心に耳を傾け、時には笑い、時には歓声（野次？）も飛び交う賑やかな時間となりました。『初心忘るべからず』を胸に、人生の中でも大切な2年間を有意義に過ごしていただけるよう、支援員も精一杯サポートいたします。28年度も一緒に頑張っていきましょう。

（主任支援員 谷本洋）

バーベキュー

オリエンテーション終了後に、利用者間・職員間の親睦を深める目的とし、寮の中庭利用し全員でバーベキューを行いました。

炭を使用し火熾しから始めました。特に男性の利用者さんは率先して火熾しに取り組まれ、かなりの時間を要しましたがいい具合に火を熾すことが出来ました。また、女性陣は食堂内での準備を行い、男性・女性共に、声を掛けなくても自然に準備に携わってりました。

肉や野菜・焼きそば等が焼き上がり、食堂内ではけんちゃん汁やキャベツの昆布和え、おにぎり等出来上がり食べる準備が整うと、我先に…と肉に向かう人、少し控えめに召し上がる人等々、様子は様々でしたが、美味しく楽しそうに食べている姿が印象的でした。行事が苦手な方も、職員の配慮のおかげで嫌な思いをせず、静かにその場を楽しまれておりました。

バーベキューを通し、楽しみ方や参加の仕方は人それぞれでしたが、利用者・職員共に、一つの目的に向い、それぞれの役割を果たすことができ、また、一社会人としてのルールやマナーを学ぶことができ、最適な行事である事を再認識することができる行事と感ずることができました。

（主任支援員 武智里峰）

初任者研修レポート

4月26日・27日、茗荷谷の東京都社会福祉保健医療研修センターで行われた、キャリアパス対応生涯研修課程（福祉職員職務階層別研修）「初任者研修」に参加させていただきました。以前勤めていた職場で、これまでに何度か研修に参加する機会があったのですが、そのほとんどが講師の方の講義を聞くだけで終わるといったものでした。一方で先日参加させていただいた初任者研修では、ある程度の講義時間はありませんでしたが、研修時間の7割以上がグループワークや全体発表にあてられ、常に頭を動かしておく必要があるなど、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。特に、様々な福祉の現場で働いている他の参加者の方々と、グループワークやグループ発表を通して話を伺い議論を重ねていくことで、視野や視点が広がる実感を得ることができたように感じられ、また考え方が少し柔軟になったように思えるなど、貴重な経験でした。

私が振り分けられたグループ（2日間を通して同じ5人で1グループ）にも、高齢者施設の介護士、放課後等デイサービスの指導員、保育士の方など、様々な職種の方がいらっしゃいました。話を伺うと業務内容もそれぞれで、通勤寮の存在や業務内容に関して知識がある方は一人もいらっしゃいませんでした。それでも、グループの皆さんは通勤寮のことに非常に興味を示してください、私にとっても、通勤寮の存在意義や業務内容をグループメンバーにわかりやすく説明することを通して、今一度、自分が働いている現場がどういった場所であるのか、初心にかえることができたように思います。

研修を終えたときに、支援の理想や方向性について自分の中で揺らいでしまっているといったことはありませんでしたが、新たな気づきもいくつか得ることが出来ました。私は昨年の9月に入職し、日々の業務や支援に集中していましたが、今回の研修を経て、もちろん今まで行ってきた業務や支援はないがしろにすることなく、一方で少し視野を広げる必要性も感じました。

福祉の現場は閉じられ自己完結したのではなく、地域との関係性は切っても切り離せないものです。地域や社会に対して、利用者さんの声などを伝えていく役割の一端を担っているのは福祉職員であり、どのような現場であっても、利用者さんが暮らしやすい、生きやすい社会にしていくために、職員が利用者さんの代弁者として発信していく必要があるのではないかと、今回の研修に参加された方々の声を聞いている中で感じました。

また、私自身は仕事に関して、今までは目先のこと、遠くても半年先の自分しか想像してきませんでした。数年先の自分も想像することによって、重点目標やビジョンを明確にし、アクションプランを策定していく必要性を感じました。日々の業務や支援と並行して、より広い視野を持つことは、結果的によりよい利用者支援につながるかと信じて、業務にあたっていききたいと考えております。

今後、今回の研修を生かせるかどうかは自分次第なので、この2日間を無駄にしないよう、日々の業務に励みたいと考えております。

（支援員 新井政暁）

調理実習

4月17日(日)に調理実習を行いました。今回の参加者は4名、そのうちの2名が初参加の方でした。新しい顔が加わるのは本当に嬉しいことです。年度初めということで身支度や手洗いなど、調理前の基本も確認してから調理に取りかかりました。

メニューはごはん・味噌汁・鶏肉の照り焼き・ほうれん草のおひたし・パンナコッタです。実は私もパンナコッタは初めて作るスイーツで参加したみなさんと同じくちよつとドキドキしながらの調理になりました。実習では、炊飯器の早炊きボタンを覚えたり、緑の野菜の上手なゆで方を覚えたり、鶏肉の下味の付け方を工夫したり、スイーツを早く固まらせるために氷水で粗熱を取ったりとみなさんの知識のプラスアルファになることを実践しました。4人の連携がうまくいって1時間ほどで素敵な和定食が出来上がりました。

職員の方にも試食いただき、美味しいとのお声をいただきました。初参加の方も出来あがり到大満足だったようです。

次回は6月を予定しております。日には決まり次第お知らせいたします。たくさんのご参加お待ちしております。最後に：気温がだいぶ上がり始めました。食中毒予防のため、食品の管理には十分にお気を付け下さい。

(調理員 遠藤小百合)

地域生活援助センター・フクシアより

『備えあれば憂いなし』フクシアGHでは年間を通し防災訓練を行っています。5年前の東日本大震災：先月に起きた熊本地震。いっどこで起きるかわからないだけに日々の訓練がとて重要です。

特に夜間、泊まりの世話人がいないGHでは自分たちで避難場所へ行かなくてははいけません。冷静に落ち着いて避難するためには日頃からの訓練、防災意識が求められます。

避難生活の長期化を予測し利用者個々に防災リュックを用意しています。またGHとしても各寮で備蓄品を準備して何か起きた際には活用できるように取り組んでいます。地震に限らず火災も注意しなければいけません。調理中や居室からの出火(埃やたこ足配線等)タバコなど身近な所からも火種は多々あります。一人一人の意識が火災を未然に防ぐことに繋がります。自然の猛威は私達の想像を遥かに超える爪痕を残します。そうならないで欲しいと願いつつもいっどこで起きても不思議ではない現状をしっかりと受け止め日々の生活を送りましょう。

【実施している訓練】

- ・地震↓年2回 ・火災↓年2回 ・防災リュック点検↓年1回
- ・各GH備蓄品点検↓年1回 ・町内会防災訓練参加↓年1回
- ・ゆいまーる主催↓年1回 防災館にて地震・煙・消火器・AED体験

(地域生活援助センター・フクシア支援員 秋本久美子)

クラブ活動・遠足

4月10日(日) 3名の利用者さんと講師の川添先生とこどもの国までお花見に出かけてきました。

前日風が強かったのですが、どのくらい桜が残っているのか皆気にしていましたが、正面入り口までの道のりで出迎えてくれた桜はともきれいでした。正面入り口から外周道路を左側から歩き始めましたが、赤松(マツタケが出来る種類)、ボタン梅、ラッパ水仙、チューリップ、山桜と進んでいき、椿の森ではツバキとサザンカの見分け方(葉っぱの形の違い)を教わりました。温室もあり、大温室では入った瞬間に湿気が強くにおいも強く長居は出来ませんでした。ジャングルの様な雰囲気、バナナの木やマンゴーの木があり匂いの大元であるニオイバンマツリは近くで嗅ぐととても強烈でした。小温室では珍しいツバキの金花茶、エンジェルランペットなどがとても印象的でした。半分ほど進むと疲れも出て来たのか足取りも重くなってきたため、ソフトクリームを食べに行くことにしましたが、その言葉を聞いた瞬間目を輝かせ積極的に道案内役を買ってってくれる方も：そこからソフトクリームが販売されている牧場までが意外と長くたどり着くまで時間がかかりましたが、何とか到着しそれぞれ決めていたソフトクリームを美味しくいただきました。普段はあまり一緒にいる事のない男女3名でしたが、それぞれが遠足を通して会話を楽しみとても良い雰囲気でも締めくくることが出来ました。

最後まで丁寧な解説をくださった川添先生へ皆、感謝の気持ちを込めしつかりお礼を述べていました。(支援員 浅田恵理子)

はじめまして 着任職員挨拶

この度、4月1日付で障害者支援施設つるかわ学園より町田通勤寮に異動となりました入江就仁(いりえ・もとあき)と申します。つるかわ学園では7年利用者さんの支援に勤めて参りました。通勤寮を利用している方が今後、自立に向けた第一歩を踏み出す事ができるよう全力を尽くします。どうぞ、よろしくお願い致します。

(支援員 入江就仁)

町田通勤寮自治会レポート

ご存じの方も多いと思いますが、町田通勤寮には利用者さんの自治会があります。小・中・特別支援学校における児童会・生徒会のような位置づけで、選挙で選ばれた会長・副会長・書記3名からなる役員が中心となり、さまざまなことを話しあいます。4月の役員会では共有スペースにおけるマナーについて話しあいました。今年度から役員ではない利用者も話し合いに参加できるように、4月の話し合いでは役員を含め5名の方が参加しました。5月2日には臨時の自治会を開き熊本地震の義捐金について討議し、早速募金活動を行うことに決まりました。

今後、利用者さんの代表として選出された役員が、リーダーシップを発揮し、通勤寮生活を心地よいものにするための建設的な話し合いがなされることを期待します。

(支援員 植竹雄太)

今後の予定

- 5月28日(土)第17回東京都障害者スポーツ大会(陸上競技・卓球)
- 5月29日(日)第17回東京都障害者スポーツ大会(ボーリング)
- 5月22日(日)町田通勤寮自治会役員会(話しあい)
- 5月30日(月)オンブズマン(利用者相談)
- 7月10日(日)保護者会 13:45より

編集後記

町田通勤寮だより57号をお届けします。

5月1日にリニューアルされた小田原城に出かけました。城下町のシンボルである天守閣が改装されたので大変な賑わいでした。この日の入場料は全て震災に見舞われた熊本に寄付されると言うことです。また城内にも募金箱があり、それを見たたくさんの子どもたちが「くまモン」のところのお城が壊れたらしいね…」と自分の財布から募金をする姿に接しました。子どもたちの間にも助け合いの精神が浸透していることに感銘を受けました。

町田通勤寮でも職員・利用者間で募金活動を始めています。善意の輪が広がり復興への一助となればと願います。

次号の町田通勤寮だより58号は7月10日発行です。